

業界初の“ペイロード解析機能”により 売上げと支払いトランザクションの相関付け!



EH3000アプライアンス
10G x 2ポート

リアルタイムの支払処理トランザクションから主要なビジネスデータを得る!

● ケーススタディ概要

ある金融会社は、業者の収益を顧客の支払トランザクションと相関付け、SLAを満たしていることを証明できるようにしたいと考えていました。

● 目標

トランザクションのパフォーマンスや収益、アーキテクチャ改善向けの予算を正当化するための見識、州毎/国毎などの地理的情報を示す単一のビュー。

● ソリューション

チームはExtraHop application inspection trigger(アプリケーション・インスペクション・トリガー)を使用して、業者毎のすべての個別の注文や総収益、ならびにトランザクション時間をSLAしきい値とともに示すダッシュボードを含め、リアルタイム追跡ソリューションを1日以内で実装しました。

● 効果

この会社は、ExtraHopを使用することで、レガシーのBIアーキテクチャよりも容易にリアルタイムの購入傾向を特定し、問題を迅速に修正することができました。今では、インフラ改善向けの予算を正当化できるようになりました。

● 課題

数万の業者を抱える大手の金融会社には、業者や購買者毎の注文や収益についてのリアルタイムでタイムスタンプ付きの可視性がありませんでした。後処理情報は、一日中周期的に実行される時間のかかるバッチジョブとして完成されていました。

幹部社員は、ビジネスの状態がオンデマンドで分かるようなリアルタイムのビューや、セルフサービスを行い、経時的に傾向をチェックするための柔軟性を持つことを望んでいました。またIT運用部門は、注文や収益をトランザクションのパフォーマンスと相関付けることができることを望んでいました。

* 今まで業者毎のトランザクション時間についての可視性がなかったため、「各業者に対してSLAを維持していることを証明する」ことが困難になっており、アーキテクチャを改善するための予算を容易に正当化することができませんでした。

幹部社員とITスタッフは、この情報をログに記録するためにアプリケーションを変更しなければならないことは望んでいませんでした。理由は、そうした作業によって、コスト、複雑性、システムのオーバーヘッドが生じるためです。

● 目標

- ・ トランザクションや収益を示す1つのビュー
- ・ 収益に基づいてさらなるインフラ投資を正当化するための見識
- ・ 地理的情報(州毎、国毎など)
- ・ 支払い問題があるかどうか、それはいつか、どこで支払い問題があるかなどを把握して、迅速な修正を行う方法

*ある金融会社は、業者の収益を支払いトランザクションのパフォーマンスと相関付けたいと考えていました。また、業者、地理、カードタイプ、ユーザ、注文品(これらの情報すべてがワイヤ上で利用可能である)毎に購入パターンを追跡したいと考えていました。

● ソリューション

支払処理エンジンとトランザクションはHTTPS上のXMLに基づいていたので、ExtraHopのストリーミング・ペイロード解析を使用しました。30分未満でApplication Inspection Trigger(アプリケーション・インスペクション・トリガー)が書かれ、テストされ、導入されました。

AITリガーは、一意のユーザID、業者ID、一意の注文ID、注文額を抽出するとともに、各トランザクションのラウンドトリップ、最終バイトがクライアントに送られた時間を測定するように設計されました。可視化と解析は業者ID毎にグループ化され、あるエクゼクティブ・ダッシュボードでは、業者毎のすべての個々の注文、業者毎の総収益、トランザクション時間をSLAしきい値とともに示すことができました。

ExtraHopの豊富な傾向化機能により、全体的に、また、個々の業者毎に、パフォーマンスと受注額に相関関係があるかどうかを判断し始めることができました。

今では、トランザクション時間が悪化し始めた場合、悪化の原因となっている、トランザクションやアプリケーション配信チェーン内の任意のコンポーネントをドリルダウンして特定し、迅速な修正を行うことができるようになりました。

● **効果**

業者毎の収益またはトランザクションの異常な低下を幹部社員に通知するために、ExtraHopの層間ワイヤデータ解析が使用されました。今では、この情報は迅速な対応ワークフローを通知することができるようになりました。

このワークフローにおいて、顧客サービスチームは、収益を後押しするためのさらなる宣伝サービスやキャッシュバック・プロモーション・サービスで業者を支援するために何が出来るかを電話で知ることができるようになりました。

リアルタイムのベースラインもあるということは、こうしたプロモーションの効果を追跡して報告することもできるということの意味します。同時に、IT部門はExtraHopのワイヤデータを活用して、収益の保護と成長を保証するアプリケーション、ネットワーク、インフラの頻繁な改善を容易に正当化することができるようになりました。

CIOは、「これは、自分のキャリアのなかで、ITが真にビジネスと連携していると感じた初めての経験だった」と述べています。



テクノロジーパートナー



ExtraHop Networksについて

ExtraHopは、ITをよりアジャイルかつプロアクティブにするのに必要なリアルタイムのオペレーション・インテリジェンスを提供します。アドビ(Adobe)、アラスカ航空(Alaska Airlines)、コンカー(Concur)、エクスぺディア(Expedia)、マイクロソフト(Microsoft)を始めとする世界で最も成功しているIT組織は、ExtraHopを使用して50万台以上のデバイスを管理し、毎日1兆を超えるトランザクションをモニターしています。